

小田急線 歴史探訪の旅

電車の常識を変えた

小田急線の大挑戦

小田原間約82キロをわずか一年半という短期間で開業させました。しかも全線複線という当時では例を見ない大規模な工事をしました。また、当時、電車は近距離移動の手段とみなされておりましたが、長距離運行は想像しにくいものでした。だからこそ、この壮大な計画は人を大いに驚かせました。利光鶴松の先見性と決断力があつたからこそ成り遂げられ、今日の東京西部の発展につながつたといえるでしょう。



開業当時の車両1形
利光 鶴松
(としみ つるまつ)



1863年大分県出身
日本の政治家。東京
市(現在の東京都)の路面電車の起業に参画し
鉄道実業家に転じる。

地下鉄 だったかも!?

小田急線誕生秘話

東京の鉄道網は現在とは全く違つたものになつていました。小田急線は現在とは全く違つたものになつていました。

小田急の創業者の利光鶴松は新宿大塚間の地下鉄を計画していましたが、景気の悪化や工事などの問題で、断念し、路線を小田原まで延長する構想に変更して、現在の小田急電鉄を設立させました。

元の地下鉄区間は実現できず、千代田線との直通で、現在の千代田線との直通で、似たようなルートを通つていました。もしも当初の計画どおり進んでいたら、小田急線は現在とは全く違つたものになつていました。

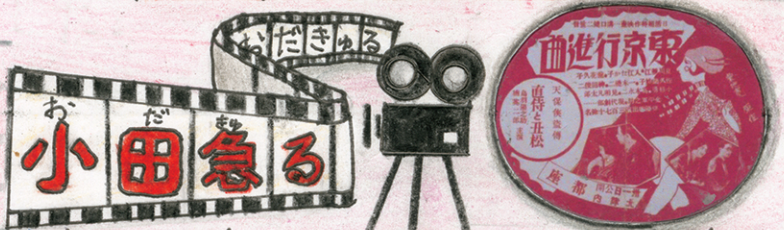
鉄道の中でも人気の高い小田急線。沿線に住んでいる僕にはいつも小田急線がなくてはならない存在です。今回はその小田急線の知られざる歴史をみなさんに紹介していきたいと思ひます。



開通小田原急行電車記念ポスター(昭和2(1927)年)所蔵:江戸東京博物館

「小田急る」は、大正～昭和初期の俗語で「駆け落ち」や「恋人の郊外デート」を指し、日活映画東京行進曲の主題歌の中の歌詞に「小田急で逃げましょか」から生まれました。

現代ではあまり使われなくなりましたが、当時の世相を反映した言葉として文学作品などで見かけることがあります。また、大人気のロマンスカーは英語の Romance(恋愛)からつけられています。小田急線はなんともロマンチックな電車ですね。



「週末温泉特急」の誕生

戦後の余暇の拡大で温泉観光が人気となり、小田急は箱根直通を実現し、新宿～箱根湯本間を週末に特急ロマンスカーとして脚光を浴び、「週末温泉特急」と呼ばれるようになりました。その後、ロマンスカーは小田急線の代名詞となり、今も進化し続けているのです。

僕が住む街の身近な駅が以前は全く別の名称でした。果たしてその理由とは?

相模大野はスパイ対策で改称された。戦時中、軍の移動手段として、スパイ対策として、相模大野にちなんで改称された。

戦争により駅名が改称されていた!!

相武台前は戦時中に改称された。戦時中に、相武台前という駅名が、戦時中に改称された。戦時中に、相武台前という駅名が、戦時中に改称された。

編集後記
小田急線の開業や駅名の歴史を調べ、記事を書くことができました。小田急線の魅力を再発見し、今後の発展を願っています。